

# 白帯歓迎!! CGI道場

著者: KENT

1959年生まれ。自作CGIスクリプトの配布をメインとするインタラクティブページ制作の支援サイト「KENT WEB」管理者。静岡県静岡市在住。 [www.kent-web.com](http://www.kent-web.com)  
illustration: Ebisu Yoshikazu



## 第2回 CGIアクセスカウンターに挑戦!

第2回の課題は「CGIスクリプト」の入力だ。そのうえで、ホームページにグラフィカルな「アクセスカウンター」を取り付けてみよう。お気に入りの数字画像をセットすれば、個性あるホームページ作りも楽しめるはずだ。

### 1 前回のおさらいと併せて、軽く準備運動だ! CGIの設定をしよう

#### CGI設置の準備

前はCGIのアップロードなど設置方法に主眼を置いた説明をしたが、どうだったであろうか。今月のCGI道場では「アクセスカウンター」を取り上げる。さらに、このアクセスカウンターを改造して広がりのある使い方も説明しよう。

まず、ソフトウェアを準備しよう。必要なものは「テキストエディター」と「FTPクライアント」だ。「テキストエディター」は、ウィンドウズ付属の「メモ帳」や「ワードパッド」でも悪くないが、とても使いやすいとは言えない。プロ野球選手がバットやグローブを選ぶように、CGI挑戦者としても作業ツールを選びたいものだ。

テキストエディターは、ウィンドウズなら「秀丸エディタ」、マッキントッシュなら「Jedit」がおすすめだ。また「FTPクライアント」は、ウィンドウズなら「FFFTP」、マッキントッシュなら「Fetch-J」がおすすめの一品。この連載では、「秀丸エディタ」と

「FFFTP」を使って解説しよう。これらはすべて本誌付録CD-ROMに入っている。

秀丸エディタ [A] Win HIDE MARU  
FFFTP [A] Win FFFTP  
Jedit [A] Mac Jedit  
Fetch-J [A] Mac Fetch-J

#### アクセスカウンターの基本設定

まず、本誌付録CD-ROMのサンプルのファイルをすべて、パソコンの適当なフォルダーへコピーしよう。ウィンドウズの場合は、CD-ROMからコピーした後「読み取り専用」を解除する必要があるので「右クリック」「プロパティ」「読み取り専用」のチェックをはずす。

CGIサンプルの収録先  
[A] Magnavi Ip0108 Cgi

ここまでの作業が完了したら「秀丸エディタ」で「wcount.cgi」を開いてみる。

最初に修正するところは、前回覚えた「Perlのパス」だ。この指定を間違えるとCGIスクリプトが動作しないので十分に注意しよう。この設定をくわしく解説している前回の「CGI道場」がCD-ROMに収録されているので、CD-ROMのもくじを見てほしい。

次に修正するところは「基本設定」部だ。設定する場所は6か所あるので、状況に応じて変更が必要だ。以上の修正が終わったら秀丸エディタで上書き保存しよう。

次に「wcount.dat」だが、「0」からカウントする場合は修正は不要。途中からカウントしたい人は、中身の「0:」となっている部分の「0」を開始したい数字に変更する。たとえば、開始するカウントが「15000」の場合には「15000:」としよう。

#### アクセスカウンターの設置

設定が終了したら次は設置だ。設置にはFTPクライアントを使い、図のようにディレクトリーにそれぞれのファイルをアップロードして、ファイルのパーミッションを設定する。

ここまでの作業が終了したら動作確認だ。wcount.cgiには簡易チェック機能があるので、これを利用しよう。設定などに不備があれば、その内容も表示するようになっている。

# アクセスカウンターの 設置作業

```

1 #!/usr/local/bin/perl
2
3
4 WEB COUNTER v1.0 (2001/06)
5 Copyright (C) Kent Web 2001

```

1行目にある「Perlのパス」を指定する。  
「#!/usr/local/bin/perl」が「#!/usr/bin/perl」  
のことが多い。

wcount.cgiの56行目以降を以下のように設定する

```

#=====#
# 設定項目 #
#=====#

# ログファイル
$logfile = './wcount.dat'; 1-1

# 画像形式
# G : GIF (画像拡張子は「.gif」とすること)
# J : JPEG (画像拡張子は「.jpg」とすること)
# P : PNG (画像拡張子は「.png」とすること)
$imgtype = 'G'; 1-2

# 画像ディレクトリ (最後は / で終わること)
# フルパスだと / から始まるパス (http://からではない)
$imgdir = './gif/'; 1-3

# ロックファイル形式
# 0=no 1=yes
$lockkey = 0; 1-4

# ロックファイル名
$lockfile = './lock/wcount.lock'; 1-5

# IPチェック機能 (重複カウント対策)
# 0=no 1=yes
$ipcheck = 0; 1-6

#=====#
# 設定完了 #
#=====#

```

1-1 : ログファイル、つまりデータを記録する  
ファイル名の設定だ。ここは変更しない。

1-2 : 使用する画像ファイルの種類を設定する  
個所だ。今回の例ではGIFファイルなので  
「G」のままにしておく。もし、JPEG画像を  
使うなら「J」を、PNG画像なら「P」に変  
更する。

1-3 : 使用する画像ファイルを置くディレク  
トリーを指定する。今回はこのままにしてお  
こう。

1-4 : これは「ロックファイル機能」の使用  
の有無を設定する。今回ここは「1」として  
おこう。アクセスカウンターを長く使って  
いると、たまたま同じタイミングで2つのアク  
セスが重なることがあり、ログファイルが破  
損してしまう。この現象をできるだけ防止す  
るのがこの機能だ。

1-5 : これは1-4の機能を使用する場合のロ  
ックファイルの指定。今回はこのままにして  
おこう。

1-6 : これは「IPアドレス」をチェックして  
重複カウントを防止する機能だ。この機能を  
使用する場合は「1」を、使用しない場合は  
「0」としておこう。これは、同じIPアドレ  
スから連続してアクセスがある場合はカウン  
トしないようにする機能だ。より正確な訪問  
者数をカウントできる。

CDに収録したファイルについて

wcount.cgi... 今回の「CGI道場」で使うCGIスクリ  
プト。このファイルの改造が今回のメイ  
ン。

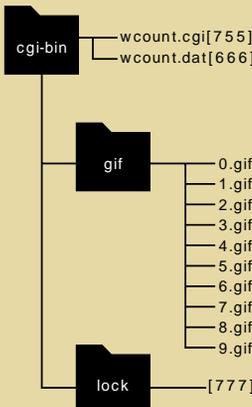
wcount2.cgi... ランダム表示機能の改造が済んでいる  
CGIスクリプト。

wcount3.cgi... カウントダウン機能の改造が済んで  
いるCGIスクリプト。

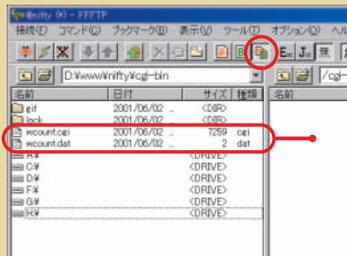
wcount.dat... アクセス数を記録するためのファイル。  
0.gif ~ 9.gif... 実際のカウンターの表示に使う画像フ  
ァイル。

timelocal.pl... カウントダウン機能を実現するとき  
に必要なファイル。

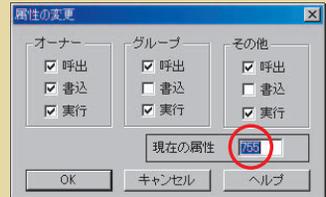
アップロード先のフォルダーについて



@niftyの例だと、cgi-binフォルダーに「wcount.cgi」と「wcount.dat」を「アスキーモード」で転送し、パーミッションを「wcount.cgi」は「755」に、「wcount.dat」は「666」に設定する。次に「cgi-bin」フォルダーの中に「gif」フォルダーと「lock」フォルダーを作成し、「gif」フォルダー内に画像ファイル「0.gif ~ 9.gif」を「バイナリーモード」で転送し、さらに「lock」フォルダーのパーミッションを「777」に設定する。



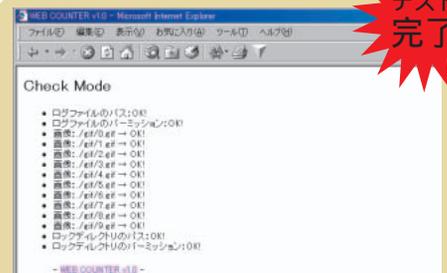
アップロードするには左画面から右画面にドラッグ  
& ドロップする。



ファイルの転送が完了したら、左の図を参考  
にパーミッションの設定を行う。

チェック用のURL (@niftyの場合)  
http://hpcgi?.nifty.com/\*\*\*\*/wcount.cgi

?は「http://homepage?.nifty.com」のサブドメイ  
ンに付く数字が入る。\*\*\*\*にはホームページ領  
域のID名が入る。ブラウザから直接、上の  
URLにアクセスすると、「wcount.cgi」は「チ  
ェックモード」で動作する。ここで必ず、CGI  
が正常に動作しているかチェックしよう。



動作のチェック画面。画像がNGになる場合、拡張子が小文  
字になっているか確認しよう。



# 2 応用の利く基本テクをマスターすべし HTMLからカウンターを呼び出す)

いよいよ完成が近づいてきた。カウンターを表示させたいHTMLに所定のタグを記述しよう。タグはカウンター1桁につき1行ずつ記

述する必要がある、という書き方をする。具体的には下の例を参照してほしい。

タグを書いたHTMLをブラウザから呼び出して表示させてみよう。下のように表示されれば完成だ。

## 応用



2-2: アップロードする画像ファイルを変えるだけで、個性のあるアクセスカウンターを作ることができる。フリー画像を提供しているサイトからダウンロードしてもよいだろう。  
www.digitmania.hollowwww.com

カウンター表示に使うHTML(4桁のカウンターの場合)

```




```

2-1: 図は見やすいように、タグごとに改行しているが、実際は改行せずにすべてのタグを1行で記述する。タグで記述したURLは@niftyでの例で、「?」は数字、「\*\*\*\*」はID名とする。



完成

# 3 CGIを思いのままに改造しよう!「前編」 画像をランダム表示させる)



次はこのアクセスカウンターの応用的な使い方を2点紹介しよう。まず第一に画像をランダムに表示させる改造だ。これはPerlの「rand関数」を使うことで実現できる。右の図の囲みの部分、9行を間違えずに「wcount.cgi」の97行目から追加しよう。

この改造後のCGIの応用例だが、0から9までの画像を写真にすると、アクセスするたびにトップページの写真を変えられる。

タグの書き方は、アクセスカウンターと同様で1桁に1つのタグを記入することになるが、末尾に引数として「&M=R」を追加することになる。

```
$value =~ tr/+// ;
$value =~ s/%([a-fA-F0-9]{2})/pack("C",
hex($1))/eg;
$in{$name} = $value;
}
# アトランダム表示
if ($in{'M'} eq "R") {
srand;
$rand = int (rand(time|$$));
&img_view($rand);
exit;
}
```

```
# ロック開始
$lockflag=0;
if ($lockkey && $in{'D'} == 1) { $lockflag=1; &lock; }
```

wcount.cgiの97行目以降に囲み内の文字を追加する

3-1: 囲みの中をひたすら入力する。エディターで上書き保存して、FTPクライアントでプロバイダーのページへ「アスキーモード」で転送して「wcount.cgi」を上書きさせてみよう。なお、この改造後の「wcount.cgi」は「wcount2.cgi」というファイル名で別途用意した。

## 応用

ランダム表示に使うHTML(3桁の場合)

```



```

3-2: 実際は改行せずにすべてのタグを1行で記述する。タグ中のURLは@niftyの例で、「?」はhttp://homepage?.nifty.comの数字、「\*\*\*\*」はホームページ領域のID名とする。



完成



CGIサンプルの収録先

Magnavi Ip0108 Cgi

# 4 CGIを思いのままに改造しよう!「後編」 カウントダウン機能を付ける)

wcount.cgiの105行目以降に囲み内の文字を追加する

```
# アトランダム表示
if ($in{'M'} eq "R") {
    srand;
    $rand = int (rand(time|$$));
    &img_view($rand);
    exit;
}

# カウントダウン表示
elseif ($in{'CD'}) {
    if ($in{'CD'} =~ /^(\\d\\d\\d\\d)(\\d\\d)(\\d\\d)$/) {
        $Y = $1 - 1900;
        $M = $2 - 1;
        $D = $3;
    } else { &error; }

    require 'timelocal.pl';
    $ENV{'TZ'} = "JST-9";
    ($sec,$min,$hour,$mday,$mon,$year) = localtime(time);
    $time = &timelocal($sec,$min,$hour,$D,$M,$Y);
    $time = int (($time - time) / 86400);
    if ($time < 0) { $time = 0; }

    &img_view($time);
    exit;
}

# ロック開始
$lockflag=0;
if ($lockkey && $in{'D'} == 1) { $lockflag=1; &lock; }
```

4-1 : この改造後の「wcount.cgi」は「wcount3.cgi」というファイル名で別途サイトに用意した。CD-ROM収録の「wcount.cgi」を使う場合は、121行目の「\$Y=\$1」を「\$Y=\$1-1900;」に書き換える。

internet.impress.co.jp/cgi/

第2の改造はカウントダウン機能だ。設定した日付まで、日単位でカウントダウン表示を行うもので、たとえば「花火大会まであと日」や「ワールドカップまであと 日」のように表示できる機能だ。

これはPerlの時間取得のライブラリー「timelocal.pl」を使うことで実現できる。まず本誌付属のCD-ROMから「timelocal.pl」をパソコンの適当なフォルダーへコピーしよう。ウィンドウズの場合は、恒例の「読み取り専用」のチェックをはずすのを忘れずに。

次に「wcount.cgi」を秀丸エディタで開き、左のテキストを追加してみよう。今度は長丁場だが頑張ってほしい。

それではカウントダウンをさせたいHTMLページに下のタグを記述したら、ブラウザーに表示させよう。下のような画面が表示されたら改造は成功だ。

カウントダウン表示に使うHTML(表示3桁、2002年5月31日までの場合)

```

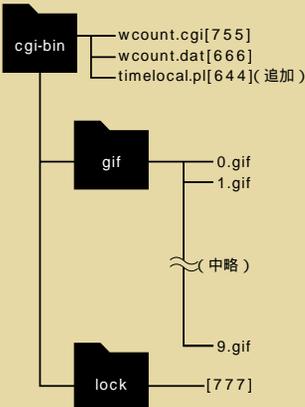


```

4-3 : タグは、これまでと同様で1桁に1つのタグを記入するが、カウントダウン機能の引数として「&CD=対象年月日」(対象年月日は必ず8桁で記述すること)を追加する。上の例ではタグごとに改行しているが、実際は改行せずすべてのタグを1行で記述する。タグで記述したURLは@niftyでの場合で、「?」はhomepage?.nifty.comの数字、「\*\*\*\*」はホームページ領域のID名とする。



CGI サンプルの収録先  
Magnavi Ip0108 Cgi

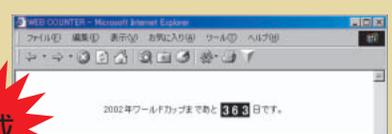


4-2 : 修正後の「wcount.cgi」と「timelocal.pl」を「wcount.cgi」のあるフォルダーへアスキーモードでFTP転送しよう。なお、「timelocal.pl」のパーミッションは「644」としておく。



サンプルスクリプト「wcount.cgi」「wcount2.cgi」「wcount3.cgi」についての注意  
・これらのCGIスクリプトはフリーソフトとして使うことができます。  
・詳細な利用規定については下の「利用規定」を読んでください。

www.kent-web.com/pub/c/kitei.html



来たれ! 道場破り  
今回のCGIスクリプトの「ランダム画像」を使って「福笑い」のような、ユニークなホームページを送ってほしい!!  
宛て先は「im-cgi@impress.co.jp」  
こちらにURLを書いて送るべし。優秀なホームページは誌面で紹介するぞ!



今回はちょっと歯ごたえのある内容だったと思うがどうだろう。さらにこれからCGIの真髄に迫るので、今回もしっかりとマスターしてほしい。

次回は「掲示板」に挑戦だ!

つづく



## [インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

**株式会社インプレスR&D**

All-in-One INTERNET magazine 編集部

[im-info@impress.co.jp](mailto:im-info@impress.co.jp)